金融教育の現場レポート

山梨県立上野原高等学校
大神田寛子教諭

社会人の家計管理を疑似体験
自立のための健全な金銭感覚と自主的に判断できる自信を養う

「金融教育」は社会のなかで生きる力を育むことを目的として行われる教育です。このコーナーでは、金融教育の授業がどのように進められているか、教育現場に立つ先生や授業を受ける生徒の姿をレポートします。今回は、山梨県立上野原高等学校（以下、上野原高校）で家庭科を教える大神田寛子先生にお話をうかがいました。授業の目的は生徒たちが自立して健全な社会人になること。一人暮らしの社会人に必要な生活費を体感できる実践的ワークシートなどを用いて、収入に見合った生活を送れる収支バランスを養い、自分で判断するための自信を身に付けさせます。

大神田寛子教諭

新しい視点を提供するために全教科で金融教育を実践

上野原高校では、生徒一人ひとりの夢を実現するため、キャリア教育に力を入れており、その一環として金融教育も積極的に行っています。2016年度と2017年度の2年間は、金融教育研究校の委嘱を受け、全校をあげて金融教育の強化に取り組みました。

研究校としての教育内容を検討する「金融コア会議」を組織し、管理職、教務主任、生徒指導主事、そして金融教育の中心となる公民科と家庭科の教員が会議に参加しました。金融教育を実践するうえで中心的な役割を担う教員が集中して議論を行うことで、より明確な方針を打ち出せるようにしたのです。決定した方針は管理職と各分掌主任からなる運営委員会、そして全教員へと共有されていきました。

この取り組みの特徴は、全教科の教員が金融教育を研究し、実践したことです。各教科の授業には、実際の社会生活に密接に関係するポイントがあることに注目。この視点のもと、金融教育を実践することで生徒の見方や考え方の幅が広がり、新しい気づきを提供できると考えたのです。例えば、英語科では海外旅行のための資金計画を立案し、英語で発表。数学では、実際に利息やローンを計算し、その仕組みを理解するとともに、資産運用の大切さを学びました。

家庭科では、自立した消費者になるための「消費生活」と、生涯を見通した生活について学ぶ「生活設計」という単元があります。家庭科の担当である大神田先生は、1年生では必修科目として基礎的な知識を教えますが、2年生の選択科目「ライフデザイン」のなかで、実習や実践を主体とした「消費生活」と「生活設計」に多くの時間を割き、より体験的に学ばせます。大神田先生は、上野原高校の生徒たちがこうした授業を通じて学ぶ意義について、こう語ります。

「本校の生徒はとても優しくおとなしい子が多いので、生活に関わるお金の知識を持たないまま社会に出ると、悪質商法

2年生の家庭科の選択科目「ライフデザイン」の授業はグループワークが主体。
グループ内で意見を出し合うことで、異なる価値観があることを学ぶ。

などにだまされてしまう恐れもあります。だから高校生の今、失敗してもよいから自分で考えて行動する機会が必要だと思います。また、正社員として就職し生計を立てることの重要性を考えるなど、生徒たちが、卒業後に自立していくうえでも重要な教育と考えています」。

金融コア会議では、15項目から成る「金融意識調査」というアンケートを作成しました。金融広報中央委員会が発行する「金融教育プログラム【全面改訂版】」に掲載される金融教育の目的をベースに作成し、生徒の金融に関する意識の度合いを数値化できるようにしたのです。

「ライフデザイン」を選択する生徒に、授業前にこのアンケートを実施したところ、次の4項目において金融意識が低いことが分かりました。

☒将来の生活設計ができる
☒健全な金銭観を保持している
☒消費者の権利・責任・自立について理解できる
☒金融トラブル・多重債務について理解できる

大神田先生は調査結果を踏まえて、「収支に見合った家計管理ができるようになろう」というテーマを設定し、授業を立案・実践しました。教材の作成には、金融広報中央委員会発行の「これであなたもひとり立ち　自立のためのWORKBOOK」を活用。授業は少人数のグループワークで行われます。

シミュレーションを通じて自分の考えで判断することを体験

「ライフデザイン」では、お金にまつわる具体的な事柄を題材とした実践授業を、順序立てて展開します。

《実践授業①一人暮らしのアパート探し》

最初の授業は、不動産会社のアパート物件情報が教材です。一人暮らしを想定し、複数の物件から希望の賃貸住宅を選択。物件情報を読み解き、ワークシートに転記していくのです。アパート探しの経験がない生徒たちは、知らないことばかりですが、用語の意味を学び、条件を比較しながら、どの物件がよいかを検討します。

「生徒たちからは、『住むなら、やっぱりフローリング！』、『駅近がいい！』といった声が聞かれます。家賃だけでなく、いろいろな条件があることを学ぶことができれば大きな成果です。実生活ではさまざまな条件を検討し、どこかで折り合いを付けて判断しなければなりませんから、妥協点を自分で考え探ることが体験できればよいと思っています」。

《実践授業②適切な意思決定》

次の授業では、「今持っている自転車は、修理が必要な3段変速だが、10段変速自転車で旅行に行く」という目標が与えられ、ある条件の下、どうすればその目標を達成できるかを考えます。具体的には、①所持金（1万5000円）、②修

理代（5000円）、③3段変速自転車の価格（1万円）、④10段変速自転車の価格（2万円）の各条件が与えられ、10段変速自転車を手に入れる方法を考えます。

生徒たちはグループを組み、考えられる選択肢を挙げながら、メリットとデメリットを検討し、最終的な結論を出しワークシートに書きます。例えば、あるグループは「3段変速を修理して1万円で売る。そのお金で10段変速を購入」との結論を出しましたが、メリットは「10段変速がすぐ手に入る」、デメリットには「3段変速を修理しても1万円で売れるかどうか分からない」といったことを挙げました。

「最初の反応は『何を書けばよいか分からない』がほとんどです。もどかしいのですが、しばらく静観していると、グループ内で少しずつ意見が出始め、選択肢を書き始めるようになります。この授業の目的は、幾つかの条件を組み合わせて、自分なりの判断を行うことです。ときには、間違った選択をすることもありますが、それでよいのです。生徒にはふだんから、『人生は失敗の連続』といっています。自分で考え、判断することを体験することが大切です」。

ときには笑いを交えながら自由に意見を交換し、
家計管理表の項目に記入していく。

家計管理表の作成を通じて生活に必要な支出の相場を知る

ローンや借金の怖さやリスクを体感する授業も行われます。

《実践授業③クレジットカード・多重債務》

この授業には2種類のビデオ教材を使います。一つは、おしゃれ好きの20代女性がクレジットカードで買い物を繰り返し、ついにはキャッシングにまで手を出してしまうという内容です。もう一つは、20代男性がコンパに行くために消費者金融で借金をして、多重債務に陥る一方、会社の業績不安により、ボーナスが支払われず返済できなくなり、厳しい取り立てに苦労するという結末です。

ビデオ教材でカードローンや多重債務の怖さを実感した生徒たちは、次にワークシートを使いながら、クレジットカードの仕組みや種類、リボ払いの利息の計算方法を学ぶとともに、メリットとデメリットについて理解していきます。

「生徒たちはビデオ教材を真剣に見ます。高校生はクレジットカードを持てませんが、自分の親がクレジットカードを使う様子は日々の暮らしのなかで見ているのです。ある生徒からは『父がクレジットカードを慎重に使う理由が少し分かった』という感想が聞かれました。日本ではお金の話をする家庭は少ない傾向にありますが、親子でお金についてコミュニケーションすることは重要です。授業がきっかけで、お金に関する親の気持ちや行動が少しでも理解できたことは大きな成果です」。

生徒が記入する家計管理表。支出と収入について多くの項目があり、
生徒たちは資料と電卓を使いながら空欄を埋めていく。

《実践授業④仕事と収入》

この授業では、雇用形態や学歴などによる賃金上昇や生涯賃金の違いについて、クイズ形式で学びます。

「生徒たちが一番驚くのは、正社員とフリーターの生涯賃金に大きな違いがあるという事実です。この授業をするのは2年生の秋。3年生になる前の進路決定の時期です。なんとなく『フリーターでもいいか』と思っている生徒が収入に関する事実を知り、進路を真剣に考えるきっかけになればと思います」。

《実践授業⑤家計管理》

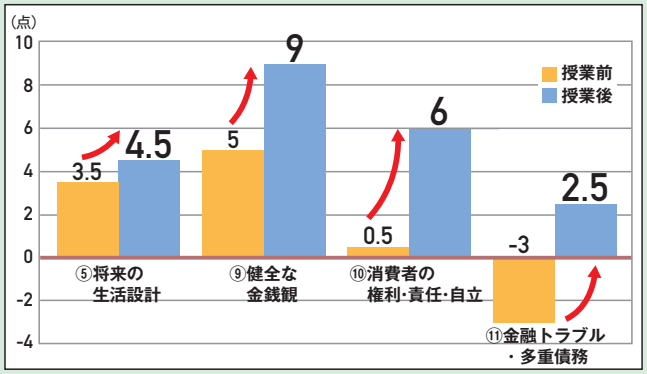
これまでの授業を踏まえ、基本テーマである「収入に見合った家計管理ができるようになる」ための実践をします。

まずは、給与明細の見方です。基本給があり、その金額に各種手当が加算される一方で、税金や社会保険料などの差し引かれる項目があることを学びます。

そのうえで、「一人暮らしの家計管理」を体験するために、実際の家計管理表の作成に挑戦するのです。収入には一般的な大卒の初任給の金額を記入します。支出は衣食住などにかかる「消費支出」、所得税や年金、保険などの「非消費支出」、クレジットや奨学金の返済など「実支出以外の支出」の項目もあります。

生徒たちが一番苦労するのは、消費支出の部分です。何にいくらかかるかまったく見当がつかないからです。大神田先生は、食費を検討するために地元スーパーのチラシを提供するなど、生徒たちが金額を決められるようにサポートしていきます。さらに、それぞれの価値観により大きな差が出る一部の項目については「節約型」、「標準型」、「裕福型」という3

【図表】生徒の金融意識の変化（授業前後）



〈金融意識調査アンケート〉

1 強く思う　1点　2 少し思う　0.5点 3 あまり思わない　−0.5点　4 全く思わない　−1点	1	2	3	4
①ものやお金を大切にしようと思う				
②お金の管理はしっかりしている				
③自分が欲しい物に対して我慢ができる				
④貯蓄の意義が理解できる				
⑤将来の生活設計ができる				
⑥お金や金融のはたらきが理解できる				
⑦日本および世界の経済について把握している				
⑧経済変動と経済政策について説明できる				
⑨健全な金銭観を保持している				
⑩消費者の権利・責任・自立について理解できる				
⑪金融トラブル・多重債務について理解できる				
⑫働く意義を理解している				
⑬自分には生きる意欲と活力はあると思う				
⑭自分の周りの人々に感謝できる				
⑮自分は社会に対して何らかの貢献をしている				

※ 回答した生徒数に点数を掛け合わせて数値化。

大神田先生は各グループを回りながら生徒たちの様子を観察。
質問に応じて、作業手順を個別に指導する。

授業の最後には発表を行う。生徒たちは発表の内容をメモして、
自分の意見との違いを確認する。

種類の金額から生徒に選択させ、できるだけ具体的な議論をさせるようにします。生徒たちはグループ内で議論しながら金額を書き、収支が赤字にならないように電卓を使い、金額を調整していきます。

「生徒は相場が分からないので、この作業はとても時間がかかります。でも、相場が分からないことに気づくことが重要。これからの人生で何かに出費していくときには、必ず相場を調べる必要があるからです。生徒からは『社会人って裕福だと思っていたけど、実情はすごく厳しい』という感想が聞かれました。私は、厳しくても正社員なら安定した家計管理ができること、フリーターだと収入が不安定になってしまうことを説明し、就職をしてきちんと家計管理することの大切さを生徒たちに伝えます」。

否定をせずに見守る姿勢が自己肯定感を高めていく

最後に、「消費者の権利と責任」について学び、一連の授業は終わります。授業終了後、大神田先生は金融意識調査のアンケートを再度行います。授業前に金融意識が低かった4項目を見ると、どれも大きく改善しました【図表】。とくに「金融トラブル・多重債務」は、マイナスからプラスに転じるまでになったのです。また、学校全体での調査でも、金融教育の実施後に生徒の金融リテラシーが大きく向上したという結果が出ました。

「金融教育の授業で大切なことは？」と大神田先生にうかがうと、「否定しないことですね」という答えをいただきました。

「家計管理の実践教育では、体験することに意味があります。それぞれのグループが何をしようとしているかを注意深く観察し、たとえ生徒が遠回りしていたとしても、否定をせずに見守ります。授業のまとめでは、極力全グループの取り組み内容に言及するよう心がけています。たとえ、その内容が正解でなくても、担当教員がきちんと見ていたことが生徒に伝わることで、生徒の自己肯定感を高め、自主的に考えて行動することにつながっていくのではないかと思います」。

大神田先生は、今後さらに踏み込んで、リスクや資金管理、ローン、金利に関する学習を取り入れ、就職後の長い人生の家計管理ができるようになるための学習内容を構築していきたいと考えています。

上野原高校では、全教科で金融教育に取り組むことによって「社会に出る前に金融に関することを学校で勉強しておくべき」と考える生徒が増加しました。また、「お金についてもっと学びたい」と考える生徒が全体の76％に上るなど、学習意欲も顕著に向上しました。上野原高校では、今後も金融教育を重要な課題とし、上野原市の特産物を使った商品開発やその宣伝活動を授業の題材にするなど、地域社会と連携しながら、お金について学ぶ機会を生徒たちに提供していく方針です。